

肺炎球菌の予防について

肺炎球菌について

肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) は、私たちの鼻腔や咽頭などからも見つかる身近な細菌の一つです。この肺炎球菌は肺炎や気管支炎、副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎、敗血症などの感染症の起病菌となり、特に肺炎では最も主要な起病菌と認識されています。また肺炎球菌は免疫力の低い小児と高齢者に重篤な感染症を来たすことが知られており、小児では中耳炎や髄膜炎、高齢者では肺炎や敗血症などの重篤で致命率の高い疾患を引き起こします。現在、肺炎球菌感染に対し尿中抗原による迅速診断法により早期診断も可能となりました。しかし抗生剤に耐性の肺炎球菌もみられており感染予防が最も重要とされています。

二種類のワクチン

現在、肺炎球菌感染症に対するワクチンは二種類存在します。それぞれ対象年齢が異なり、予防する目的の疾患も異なるため注意が必要です。

ニューモバックス® <主に高齢者のワクチン>

一般的に 65 歳以上の高齢者では肺炎の致命率も高くなるため積極的な予防が必要となります。ニューモバックス®は肺炎球菌の不活化ワクチンで牛乳由来の成分を用いて製造されます。2 歳以上で免疫力の低下した方（脾機能障害や免疫抑制治療を受けている方、65 歳以上の方など）が対象となります。このワクチンは一回の接種にて肺炎球菌に対する抗体価が十分に上昇し、効果は 5~8 年保持されます。このため、これまでは再接種が認められていませんでしたが平成 21 年 8 月より必要性があれば再接種も認められるようになりました。このため約 5 年以上の間隔がある方は接種することが望まれます。

プレベナー® <小児の肺炎球菌ワクチン>

重篤な肺炎球菌感染として、特に 2 歳以下の小児では細菌性髄膜炎が多く見られます。このほか重い中耳炎、肺炎、敗血症も引き起こします。このような小児の肺炎球菌感染に対し平成 22 年 2 月からプレベナー®（不活化ワクチン）が接種可能となりました。対象は生後 2 カ月から 9 歳までで、特に 5 歳未満の小児に勧められます。ワクチンの接種回数は年齢により異なり、生後 6 カ月までは 4 回、7 カ月から 11 カ月までは 3 回、1 歳は 2 回、2 歳から 9 歳までは 1 回の接種となります。DPT ワクチン（ジフテリア・百日咳・破傷風ワクチン）、Hib ワクチン（インフルエンザ b 型菌ワクチン）と同時接種も可能であり今後の普及に期待されます。

- 1) 2 歳以上の脾摘の既往のある方にはニューモバックスの保険適応がありますが、その他の方には自費での接種となります。高齢者では一部を助成してもらえる可能性がありますので確認が必要です。
- 2) 小児に対するワクチンと高齢者に対するワクチンの混同が懸念されています。対象年齢、対象ワクチンの確認に注意が必要です。
- 3) 富山県では子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの接種費用の助成が始まりました。氷見市、高岡市は現在開始時期を調整中です。



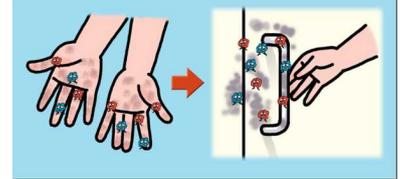
ちょっと関連事項：Hib ワクチン

インフルエンザ (*Haemophilus influenzae*) b 型菌に対するワクチンです。インフルエンザ b 型菌は肺炎球菌と同様に小児の重篤な細菌性髄膜炎を引き起こす細菌であり予防が重要です。



ここがポイント！ 病室環境の清掃

生活環境の中には、さまざまな菌が存在しています。その菌が、手を介して人や物に移っていきます。病院には免疫力の低下した患者さんが入院しています。環境の清掃や整備を行い、感染の防止に努めましょう。



ポイント その1

医療従事者や患者さんが頻繁に接触する部分は1日1回以上の清掃を行う。
(ベッド柵、オーバーテーブル、床頭台の引き出しの取手、点滴台の取手、部屋のドアノブ、電気のスイッチなど)
通常のコ拭きは湿式清拭を行う。(住居用洗剤使用でOK)
流行性角結膜炎(はやり目)はアルコール含有クロスでの接触面清拭を行う。
感染性腸炎(ノロウイルス)やクロストリジウムディフィシル陽性患者さんの環境周囲の清掃は、0.1%次亜塩素酸ナトリウムを使用する。
ぬいぐるみや人形などの装飾品は洗えるものを選択してもらうか、毎日拭くようにする。
生花や鉢植えがある場合は極力持ち帰ってもらう。生花は水を毎日替えるのが好ましい。
感染症患者部屋の環境清掃は一番最後に実施する。

ポイント その2

手が高頻度に触れる環境表面はここです！

*1日1回以上の清掃で汚れを取り除きましょう。

